

1 国語科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 単元を貫く言語活動の趣旨

① 単元を貫く言語活動とは、**当該単元で付けたい国語の能力を確実に子供たちに身に付けさせるために（注1）、子供たちの主体的な思考・判断が生かされる（注2）課題解決の過程となるよう**、言語活動を、単元全体を通して一貫したものとして位置付けるものである。

（注1）**学習指導要領・国語**「（1）に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。」

（注2）**総則第4の2（1）**「各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、（中略）児童の言語活動を充実すること。」

（注3）**解説国語編 国語科改訂の要点（2）学習過程の明確化**「自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視し、指導事項については学習過程を明確化した。」

② 学習指導要領の内容の（2）に示す**言語活動例を基に、具体的な言語活動を通して「指導事項」を指導することが大切**である。その際、「ここで音読する」「ここで解釈する」といったばらばらの活動ではなく、児童が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を貫く言語活動を位置付けることが必要である。

（「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」）

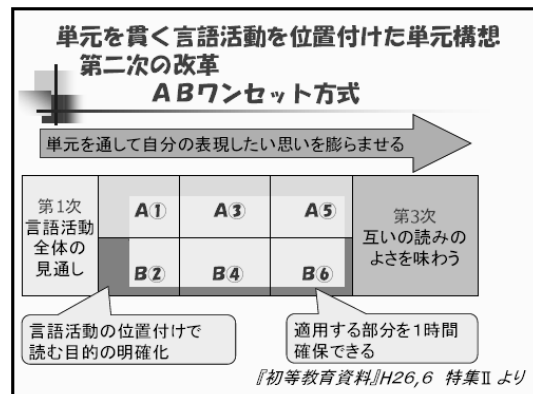
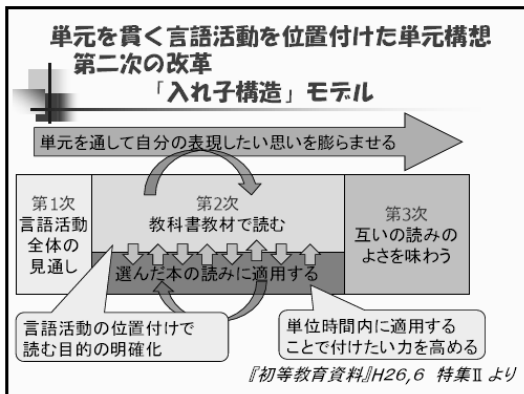
(2) 単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくりの実践課題とその対応

① **実践課題・・・教科書教材を読むことの多い展開部では、言語活動とは無関係に場面ごと段落ごとに読み取らせ、子供たちの主体的な思考や判断ができにくくなり、指導事項を十分指導できないといった状況が指摘されてきた。**

② **対応策・・・「入れ子構造」(*)を取り入れた学習過程の工夫**

* **【単位時間の前段】（30分程度）**○教科書教材で、登場人物の行動に着目して、好きな場面とその理由を見付けながら読む。**【単位時間の後段】（残りの15分程度）**○自分の選んでいる物語を読んで、紹介したい好きな場面とその理由を、登場人物の行動に着目して見付ける。

- ◎ 教科書で学んだ読みを、すぐ自分の読みに適用できる。
- ◎ 自分で選んだ作品を読む能力を、スモールステップで指導できる。
- ◎ 自ら選んだ本の叙述に着目できるため、読者としての子供を育てやすい。
- ◆ 教科書と自分で選んだ本の読みが関連を持たなければ効果は少ない。
- ◆ 「入れ子」部分の時間確保が難しい。



対応策 ・ ・ ・ 「A B ワンセット方式」(*) を取り入れた学習過程の工夫

*教科書(A)と自分が選んだ本(B)を1時間ずつ交互に読み進めることで、教材文を読んで学んだことを、自分の読みや紹介に生かす。

- ◎ 教科書教材の学びを自分で選んだ本の読みに生かす時間を確実に確保できる。
- 教科書の学び(図のA①③⑤の部分)を指導事項を基に分割して指導する必要がある。
- 導入前に、関連図書に触れさせておく効果が大きくなる。
- ◆ 入れ子構造よりも教科書(A)と自分で選んだ本の読み(B)のインターバルが長くなるため、主に中・高学年向き。

(3) 国語科における思考力・判断力・表現力とは

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。(第三学年及び第四学年の「C読むこと」)

「自分の感動を伝えるために、この作品のこの言葉を紹介したい」「この筆者の述べていることで自分の考えを補説したい」といった**目的意識や必要性**があるからこそ引用するのであり、またそうした「**目的や必要**」が**明確であればあるほど、どの文章のどこを引用すればよいかを主体的に思考・判断することができる**のである。

2 各学校における国語科の授業改善の一層の進展のために

(1) 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視

第三学年及び第四学年「C読むこと」**ウの指導事項を、言語活動エを通して指導する**場合の実践例(「南吉の小窓」)

① 単元導入時における「見通しを立てる」学習活動

「南吉の小窓」では、心に残った場面の移り変わりや登場人物の性格、気持ちの変化、情景などを手がかりとして、お気に入りの作品を紹介する。

② 学習計画表の工夫

上段に学習計画、その下に南吉の小窓のパーツの構造を図解して示している。

第三次の前半では「ごんぎつね」についてお気に入りの場面とその理由を交流してはっきりさせ、後半ではその学習を生かして自分で選んだ南吉作品を読み、お気に入りの場面とその理由をはっきりさせて、「南吉の小窓」のBのパーツを作ることとなる。

※ **子供たちは、各単位時間の学習が、単元を貫く言語活動とどう結び付くのかを容易に見通すことができるようになる。**→本単元あるいは本時の学習活動の必然性を実感すること。

③ 各単位時間における学習を「振り返る」活動

「今日何をするのか」が子供たちにとって必然性をもって認識できるようにすることで、それに照らして「**今日、どのような学びがあったか**」を認識することができるのである。

→ **学んだことを実際の読書行為として、活用可能な形で定着させる**ことが大切。

